

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員の正社員化を。

めざせ、均等待遇、なくそう差別！

ユニオンは労契法裁判に勝利するぞ！

郵政ユニオン長崎の結成28年 さらなるたたかいを決意する

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙・「みらい」
NO. 3857
18年5月25日(金)
・Fax 095-828-1953

おはようございます。

明後日、二十七日は、郵政ユニオン長崎(旧、郵崎労)の結成記念日です。今から二八年前の一九九〇年五月二十七日の日曜日、旧全通を卒業した四〇名の仲間によって、全労協・郵政長崎労働組合は旗を揚げました。

その日は日曜日の快晴。結成大会会場の万才町の住友生命ビルの会議室に集まった仲間と家族、そして地域の支援者、また全国からかけつけてくれた仲間など、六〇名の熱気があふれる中、結成宣言が発せられ、郵崎労はスタートをしました。

それから二八年。現在は郵政ユニオン長崎中郵支部ですが、ほぼ結成時の第一世代は退職をされ、現役組は第二世代ですが、結成の基本を守り、たたかう全労協の労働組合として頑張っています。

当時の郵崎労の組合員が作



った「郵崎労働歌」です。

一、額の汗をぬぐうとき、
見上げる空に虹がある
さあー 集まろう 手を
とりあつて
われらは目指す
明るい職場

働く者権利のために
集い 励まし 誓いあい
新たな未来きりひらく
ああー 郵崎労 旗高く
(ちなみに、メロディーは郵政ユニオン長崎のHPで聞くことができます)。

当時も言われましたが、なぜ全通を卒業して、独立労組を作ったのか、です。一つは労使協定の連合には反対であり、たたかう全労協を選択する生き方では、全通では不可

能でした。

二つには厳しくなる職場で、それまでの働く権利を守るためには、労使協定主義では困難であったからでした。

三つには、反マル生闘争で解雇された四・二八反処分闘争や、国鉄分割民営化反対で、一〇四七名の解雇撤回闘争を継続するためでした。

第四に、そうして

始まった労使協定主義の時代は非正規雇用の増加とダブルですが、今や郵政の半分は非正規雇用の社員で、その後の郵政ユニオン運動の重要な目標となつていきます。

二八年をふりかえり、一番の感想は、こんなに急激に社会や会社が悪化するとは思わなかつたというのがあります。これは組織の内外を問わず、共通しています。しかし、私たちは労組がたたかいを放棄した権利は守れないという続けて、微力ながらたたかってきましたし、ストライキも続けています。

最近では、非正規労働者の復権を目的に、労働契約法一

八条(二〇条の完全獲得を目指し、裁判闘争も行っていますし、東京地裁と大阪地裁では勝利を勝ち取っています。

しかし会社などは非正規差別を認めず正社員化の約束も守らず、職場には二十万人の非正規労働者が厳しい労働環境で働いています。せっかく正社員試験合格しても、その先は限定正社員でしかない現実は、なによりも悔しい出来事でした。

それどころか、せつかく非

正規差別と判決で勝ち取ったいくつかの手当すら、今度は正社員の手当カットで差別を隠す暴挙を取る郵政・会社があり、これと協調主義をとる多数派連合労組があります。

その意味では郵崎労の独立労組の目的は達せられていません。私たちは非力さを実感しつつも、いくつかのたたかひの勝利



を教訓し、あつてよかった郵政ユニオン」という職場を不動のものとするために、力いっぱいたたかひが続けます。

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1 集-山本, 2 集-向井, 3 集-山田, 郵便-高田, ゆうちょ銀-上筋, 他支部・分会の役員へ。